

事例3-5

取組名	「町会行事あり方検討会」による行事の見直し検討		
町会名	惣社1丁目・2丁目・3丁目町会（本郷地区）	町会 データ	※3町会合計 ・人口／2,904人 ・世帯数／1,304世帯 ・高齢化率／22.9% ・町会加入数／865世帯
取組概要	○ 「町会行事あり方検討会」を発足し、町会行事の見直しを検討 ○ 文化祭、納涼夏まつりを一本化し、行事（惣社まつり）としてリニューアル		

背景・課題

- ・ 惣社区会は、惣社1丁目、惣社2丁目、惣社3丁目の3町会で構成され、文化祭、納涼夏まつり、ますつかみ大会、運動会など、3町会合同による事業を数多く実施していた。
- ・ 子どもを対象とする事業が多く、特に子ども会役員の負担が大きいため、役員のなり手もなく、事業の見直しが強く求められていた。

経過・取組内容

- ・ R5年度、「町会行事あり方検討会」を発足。月1回ほどの頻度で会議を開催し、各種事業の見直しを行った。
- ・ 検討会では、危険を伴う事業や参加者の多くが役員で一般参加の少ない事業、選手集めが大変な運動会・球技大会などについて、検討を行った。
- ・ なお、検討に当たっては、廃止ありきではなく、統合により効率的・効果的な事業ができないかも含めて吟味することとした。
- ・ 検討の結果、次年度以降の事業の方向性を次のように整理した。
 - ① ますつかみ大会は廃止
 - ② 文化祭と納涼夏まつりは一本化し、「惣社まつり」として開催
 - ③ 運動会は町会対抗種目等を行わず、種目数を減らすなどの工夫により、時間を短縮
 - ④ 球技大会は種目を減らし、役員主体から競技団体主体の運営に変更

成果・今後の展望等

- ・ 事業の見直しにより、動員日数や拘束時間が減ったことで、役員の負担軽減につながった。
- ・ これにより、子ども会役員も大きな混乱なく、選出されるようになった。
- ・ 「惣社まつり」には約500人の参加があり、作品展も多くの人が見学してくれるなど、事業統合による相乗効果もあった。
- ・ 運動会は縮小したにも関わらず、見直し前と同じくらいの参加者があった。
- ・ 役員の負担軽減は実現できたが、負担がまったくなくなったわけではない。今後は「負担感」をいかに減らすかを検討していきたい。



R6年度「惣社まつり」の様子

【ポイント】

- ▼ 性急に決めず、時間をかけてじっくり検討
- ▼ 単純な事業廃止ではなく、統合による更なる発展の可能性を模索